

- 《履修上の留意事項》- 心理文献購読Iを習得した、あるいは同等以上の英語文献の読解力を持つ履修者を前提とする
- 受講にあたって求められる作業量が多い
 - 授業で科される作業への適時の積極的参加が求められる
 - 互いの翻訳を適切かつ建設的に批評しあう作業が求められる
 - 授業はすべてオンラインでおこなう

《担当者名》松本由起子

【概要】

心理文献購読Iの学習目標を達成していることを前提に、辞書・機械翻訳・生成AI・CAT (Computer Assisted Translation) 等のツールを開講時から用いて、ある程度のスピードをもって英語論文を訳読形式で読む実習。1本の論文を目的・方法・結果・考察に大きく四分して読解・翻訳し、互いの翻訳を随時建設的に批評し、教員がフィードバックするかたちで4週で論文1本を全訳する。また、読破した論文の著者を特別講師に迎え、研究の計画から論文のパブリッシュに至る戦略的な論文作成過程の実際を学び、戦略的製作過程に応じた論文の読み方を考える。3本の論文を読み進めるなかで、有効な読解・翻訳スキルを意識的に選ぶ側面を段階的に増やし、読解・翻訳の精度を上げることを目指す。

【学修目標】

- 英語論文の精読に要する語学力、ツール、スキルがわかる
- 英語論文の一般的な構造がわかる
- 英語論文の作成過程がわかり、それに準じた論文の読み方ができる
- 英語論文の精読に要する手間と時間を推計できる
- 英語論文をある程度のスピードである程度精確に読める
- 英語論文をある程度のスピードである程度精確に訳せる
- 英語論文の翻訳をある程度適切に批評できる
- 英語論文の著者がなぜそう書き方をしたのかが推測できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	導入	授業の目的・方法・目標	松本由起子
2-5	課題1：英語論文(1)	<ul style="list-style-type: none"> - 論文を四分し、1本を4週間で訳読する - 訳文をシェアし互いに批評する - 教員は訳文にコメントする - 難解な箇所の解決法を探る - 翻訳を特別講師の授業に備えて整える 	松本由起子
6-7	特別講師による英語論文(1)の解説	<ul style="list-style-type: none"> - 研究の計画、被験者確保/維持・実験の実施・結果の分析・文書化・投稿・リビジョン・プレスリリース・取材対応等、英語論文作成過程の解説 - 投稿論文レビューアーの視点での「いい論文」 - リビジョンの実際 - そのように作られる論文を精確に読む方法 	橋彌和秀 松本由起子
8-11	課題2：英語論文(2)	<ul style="list-style-type: none"> - 研究～論文発表過程を踏まえて英語論文を読む - 1本を4週間で訳読する - 訳文をシェアし互いに批評する - 教員は訳文にコメントする - 読解・翻訳に用いたツールを報告する - ツールの有効性を議論する - 訳文を校正する - 校正に用いたツールやスキルを報告する - 教員は校正の有効性を評価する - 論文の争点や、著者の工夫・主張を読み取る 	松本由起子
12-15	課題3：英語論文(3)	<ul style="list-style-type: none"> - 研究～論文発表過程を踏まえて英語論文を読む - 1本を4週間で訳読する - 随時、訳文をシェアし互いに批評する 	松本由起子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<ul style="list-style-type: none"> - 随時、教員は訳文にコメントする - 読解に用いたツールやスキルを報告する - ツールやスキルの有効性について議論するとともに自己評価する - 訳文を校正し、その精度を議論・自己評価する - 論文の著者の意図を推測する - 論文としての質を議論・評価する - 翻訳としての読みやすさを検討・評価する 	

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

授業参加 80%

期末レポート 20%

【参考書】

マイケル・トマセロ『ヒトはなぜ協力するのか』（勁草書房）

デイヴィッド・ブレマック『ギャバガイ！：「動物のこぼ」の先にあるもの』（勁草書房）

ジョン・ヘンデン『自殺をとめる解決志向アプローチ：最初の10分間で希望を見いだす方法』（新曜社）

エラ・シャープ『夢分析実践ハンドブック』（勁草書房）

リチャード・ラーナー主監『児童心理学・発達科学ハンドブック』（福村書店）

The Oxford English Dictionary.

【学修の準備】

英語論文の精読とそれにとまなう調査・翻訳・翻訳批評(160分)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP2. 社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している。

DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【ICTの活用】

学習プラットフォームを用いてすべての授業を遠隔でおこない、Zoom等による特別講師の授業が含まれる。翻訳・校正の作業にあたっては機械翻訳、生成AI、CATを用いる。なお、生成AIは北海道医療大学のガイドラインに基づいて使う。

【実務経験】

松本由起子（カウンセラー、心理テスター、翻訳、通訳）

橋彌和秀（発達心理学）

【実務経験を活かした教育内容】

心理臨床の実践経験学や、心理学関係書を翻訳した経験に基づいて、的確な翻訳のあり方を検討する

国際研究や、英語論文のパブリッシュ・レビュー経験に基づいて的確な論文の作り方と構造を示す